

南部地域公共交通網再編について

1. 南部地域における公共交通網再編の考え方（案）

これまでの社会実験運行の結果を踏まえた改善を実施した①の運行とともに、②の運行も取り入れ、既存の南部ルートを生かした第3期社会実験運行を令和4年9月から実施し、再編に向けた最終的な検証を実施する。

- ①朝夕の時間帯は社会実験運行の結果を踏まえつつ、西部臨海部も含めた近鉄弥富駅南口との急行便を運行し、南部ルートの利用者特性の1つである通勤・通学需要に対応する
- ②日中の時間帯は高齢者を中心とした買い物や通院等への需要に対応するため、デマンド運行を取り入れ、効率的な運行に変更する
- ③再編後の運行経費は現状と同程度を目標とする

⇒令和2年度のきんちゃんバス全体では5台で運行しており運行経費は年間約9,400万円

⇒南部ルートは2台、4名体制で運行しており年間約4,500万円

⇒運行経費の多くは運転手等の人件費が占めているため、運転手数や運転手の拘束時間（運行時間帯）で概ねの運行経費は決まってくる

2. 公共交通網再編イメージ（案）

- ◆朝夕の時間帯は弥富駅南口～西部臨海部で路線型運行（2台程度で運行）
- ◆日中の時間帯はデマンド運行を導入（2台程度で運行）

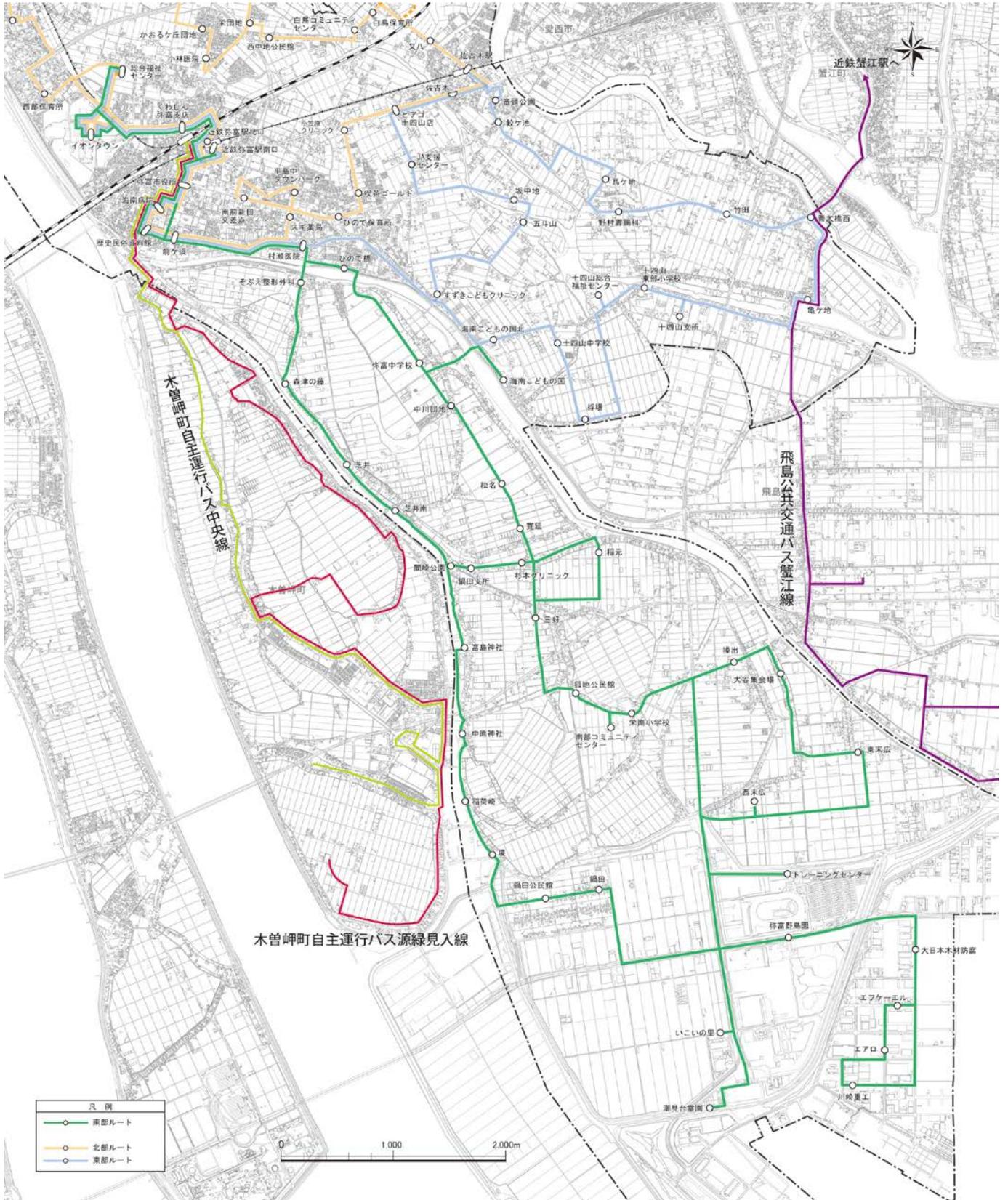
路線型運行について

- ◆通勤・通学需要に対応（平日運行）
- ◆第2期運行の利用状況を踏まえ停車バス停やダイヤ調整を実施
- ◆料金体系は既存きんちゃんバスと同一（一般200円）

デマンド運行について（路線型運行とあわせ第3期運行で実証予定）

- ◆買い物、通院、公共施設利用等の需要に対応
- ◆南部地域を2つの地域（大藤、栄南）のほか、中心部地域と飛鳥村役場バス停の3地域1バス停に区分
- ◆南部地域の2つの運行地域内にバス停を設置（既存バス停+ α 。子ども連れの方なども行きやすいように海南こどもの国バス停を大藤エリアとみなす）
- ◆中心部地域は既存バス停のほか、商業施設や病院などを中心にバス停を増設（中心部地域内々での乗降不可）
- ◆デマンドは目的地に応じて300～500円程度
地域内：300円、隣接地域間：400円、それ以外500円等
他ルートとの乗り継ぎ割引についても今後検討
- ◆利用者の制限なし（地域外の方でもいこいの里等の利用をしやすい）
- ◆運行日やダイヤ設定の有無なども含め、詳細については今後も継続して検討

◆現在の南部地域公共交通網



◆再編後の南部地域公共交通網案のイメージ

